

Web テストを用いた情報倫理教育

早稲田大学メディアネットワークセンター

齋藤 朗宏, 三橋 大輔

akisaito@aoni.waseda.jp, mhashi@aoni.waseda.jp

1. はじめに

早稲田大学では、2002 年度より情報倫理教育の一環として「情報倫理テスト」という名称の Web テスト (Web Based Test, WBT) を実施している。本テストが従来より実施されていた「PC・ネットワーク利用ガイド」の作成、配布並びに「新入生セミナー」(本年より「新入生コンピュータセキュリティセミナー」と改称)と併せて本学に於ける情報倫理教育の中心的な役割を担っている点は [1], [2] 等で報告されている通りである。

本年度に関しても、[3] で述べられているように、現状に即した形での改善が進んでいる。また、これらの情報倫理教育における不足面を補うための新たな情報倫理教育がスタートした点は [4] において報告されている。

ここでは、本学における WBT を用いた情報倫理教育について、本年に至るまでの変遷並びに現状について報告する。

2. 情報倫理テストの歴史

2-1. 2002 年度

新入生セミナー実施の代わりとして情報倫理教育に関する教材を配布、教材に関する理解度を確認するテストとして新入生全員に実施し、全 40 問、6 割の正解により合格であった。また、不適切利用者に対しても同様のテストを実施している。こちらは、全 40 問中 35 問の正解で合格であり、20 分の制限時間が設けられていた。以上の点に関しては [5] において報告されている。

2-2. 2003 年度

2003 年度より新入生セミナーを再開した。それに伴い、新入生全員に対するテストは中止された。不適切利用者に対するテストは、制限時間の廃止、

合格基準を 36 問 (9 割) に引き上げ、英語版情報倫理テストの作成等の変更を行った。

尚、この年より、PC・ネットワーク利用ガイドとの連携強化が図られ、受験者も閲覧できる解説文には PC・ネットワーク利用ガイドの参照ページが示されるようになった。以上の点に関しては [1] において報告されている。

2-3. 2004 年度

システムそのものに関わる大きな変更はなし。新入生セミナー並びに PC・ネットワーク利用ガイドとの連携強化が促進された。以上の点に関しては [2] において報告されている。

3. 本年度の情報倫理テスト

3-1. 実施の経緯

[3] において報告されているように、本年度より新入生セミナーに関して情報倫理教育の側面と技術的な側面に分け、情報倫理教育のみを全員必修とし、技術面に関しては自由参加とした。これに伴い、新入生の知識確認等を目的として、情報倫理テストは学部新入生に対して全員必修として実施された。

3-2. テストの結果

10654 名の受験対象者のうち 10041 名が合格。合格率は約 94.2% であった。5 月中旬までに受験、合格しなかった新入生は学内システム利用の ID、パスワード並びにメールシステム利用の ID、パスワードが停止された。

合格者の平均受験回数は 1.53 回、標準偏差は 1.03 であった。ただし、分布が極めて歪んでいるため、平均、標準偏差等の値は参考程度に留めるべきである。個々人の受験回数を集計した結果は表の通りとなった。

表：新入生の情報倫理テスト受験回数

受験回数 人数	1回 6837名	2回 2036名	3回 668名	4回 270名	5回 121名	6回 50名	7回 29名
受験回数 人数	8回 15名	9回 4名	10回 1名	11回 6名	12回 2名	13回 1名	14回 1名

3-3. 考察

[2]によると、昨年同様のテストを実施した結果の平均受験回数は1.84回であった。全般的に少ない受験回数で合格する傾向が見て取れ、特に全体の7割近くが1回の受験で合格しているという点に顕著であった。尚、昨年の結果では全体の55%が1回の受験での合格であった。ただし、最大受験回数に関しては、昨年より増加している。

全体的な傾向としては少ない回数で合格しているという点は、第一に新入生コンピュータセキュリティセミナーを受講した直後に大半の受験生が試験を受けているという点から、セミナーの効果が考えられる。第二にそもそも昨年度の受験者は不適切利用者に対するペナルティとして情報倫理テストを受験しているため、そもそも受験する母集団のレベルが低い可能性も考えられる。この点は、今年度新入生の試験放棄率が5.8%であるのに対して、昨年度受験対象者の試験放棄率が11%であった点や、平均的な受験回数は少ないにもかかわらず、最大受験回数は多いという点からも想像に難くない。

これらの点を総合的に考察し、セミナーそのものの効果について分析することが今後の課題として考えられる。

4. まとめ

情報倫理テストは他の情報倫理教育の柱であるPC・ネットワーク利用ガイドや新入生セミナーと密接に関わりながら発展してきている。今年度はその一環として新入生コンピュータセキュリティセミナーの受講者に対して情報倫理テストを行い、その習熟度を確認するという、2002年度の体制と、2003年度以降の体制の折衷とも言える立場を取った。

この結果、昨年度と受験対象者比べると平均的に少ない回数で合格している様子が見て取れたが、この結果が得られたことが情報倫理教育の効果である

のかそもその受験者のレベルの違いであるのかについての詳細な結論までは得られなかった。この点に関しては、今後の情報倫理関係でのトラブルの発生頻度等も含めて詳細に吟味する必要があると言えるだろう。

参考文献

- [1] 川嶋健太郎, 三橋大輔, 小野寺涼子: 新入生セミナー, ガイド, WBTを利用した情報倫理教育への取り組み, 平成15年度情報処理教育研究集会講演論文集. pp.638-640, 文部科学省・北海道大学, 2003.
- [2] 齋藤朗宏, 川嶋健太郎, 三橋大輔: ウェブテストを併用した情報倫理教育への取り組み, 平成16年度情報処理教育研究集会講演論文集. 文部科学省・名古屋大学, 2004.
- [3] 松山 響子, 海老原 崇, 小泉 大城: 新入生を対象とした情報倫理教育, 2005 PCカンファレンス論文集. CIEC/全国大学生生活共同組合連合会, 2005.
- [4] 海老原 崇, 渥美 章佳, 新城 直樹, 齋藤 朗宏: 情報倫理教育における「セキュリティ用語集」の効用, 2005 PCカンファレンス論文集. CIEC/全国大学生生活共同組合連合会, 2005.
- [5] 大鹿智基, 秋岡明香, 川嶋健太郎, 潘健民: WBTを取り入れた新情報倫理教育, 2002PCカンファレンス論文集. pp.314-315, CIEC/全国大学生生活共同組合連合会, 2002.